

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット星)

事業所番号	2770600423		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホームあびこ		
所在地	大阪府泉大津市我孫子150		
自己評価作成日	令和2年7月7日	評価結果市町村受理日	令和2年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和2年7月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは地域の大切な資源である観点から積極的に地域への参加に重点を置きその中で家庭的な雰囲気や快適に日常生活を過ごしていただけるはもとより、ご入居者様と共に社会の一員であるとの自覚から共に近隣、地域の中に帰って頂けるようご入居者様と作り上げていくことを大きな目標としております。認知症カフェ花水木…①愛の家グループホームあびこ 偶数月第二土曜日 ②泉大津商店街風街毎月第4水曜日③紅珈院ハマダ毎月第3水曜日開催。当事者、介護をしている方、サポーター、ご家族様、介護従事者などいろんな人と繋がる場所です。地域包括支援センターと共同で3か所開催しています。認知症啓発活動…キャラバンメイト養成本部会議月一回参加、キャラバンメイト(4名)地域、中学校で活動。ラン伴、地域の事業所、包括支援センター当事者、ご家族様と年に一度イベントに参加。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの母体の法人は一貫して「認知症ケア」に取り組んできており、今やグループホームの運営居室数が日本一となっており、これからの介護は予防、改善が重要と認識している。ホームの優れている点①は管理者・ユニットリーダー・計画作成者と職員一同の意思疎通が築かれており、利用者・家族との信頼関係の飽くなき改善を迫っている。②はホームは市と協働し認知症カフェを最初に開設し、現状市は6カ所まで増設され地域貢献をしている。③は献立は法人で行い、管理者は出来るだけ食材を職員が調達し、音や匂いを感じる手料理にこだわっている朝昼晩の食事、車椅子使用の方が極端に少なく認知緩和や良好な睡眠につながる日々の散歩や運動を大切にする支援、及び利用者にとって良い最期ができる様に家族と一緒にの看取り経験の積み重ね等の支援にある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホームに提示しクレド初めて一人ひとりに配布している	法人のビジョンとの整合性を保ち、ホームの職員全員がクレドカード(信条等)を常に持ち、掲示し、「快適で穏やかな生活、心を込めた親切なサービスとその姿勢、地域の人々との触れ合いを大切に」を原点にし、日々実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間の行事をする。初めて日常行事に参加させて頂き、町内の回覧板を持っていくようにしている。	町会に加入し、回覧板を利用者と一緒に配っている。ホームが位置する市と協働し、認知症カフェを最初に開催した。今では軌道に乗り、6カ所に至っており、地域住民と交流を図り、地域貢献をしている。地域のだんじり祭りは利用者も楽しみにしており、見学している。町会の清掃活動にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ花水木(3か所)を開催して認知症の理解や良き理解者を作るように務めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1回の運営推進会議にてホームの取り組みの報告をし、アドバイスをいただき、サービスの向上につなげている。	町会会長、家族、市高齢介護課職員、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会、4ヶ所のCSW(ケースワーカー)等に参加を呼びかけ、年6回を開催してきたが今年はコロナ禍で市に了解を取り、昨年12月以降、途絶えている。参加者から意見を活発に聞き、運営に活かしている。家族の参加を考え、土日の開催となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年4回の認知症部会議、認知症フォーラム、毎月一回の認知症サポーター養成本部会議に参加して協力関係を築くようにしている。	市とは分からないことがあれば電話等で聞き、助言を得ている。認知症カフェの開催等で地域貢献をしており、市職員とは信頼関係を築いている。地域の多職種の人が集まる地域ケア会議に管理者は積極的に参加している。市(人口7,5万人)には地域包括支援センターが一つあり、初期認知症集中チームを整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月一回虐待拘束等の研修を実施。3か月に1回虐待チェック表を行い身体拘束廃止委員会で検討、共有している。	現状、身体拘束はしていない。虐待や身体拘束の研修を毎月行い、職員の共有を図っている。身体拘束適正化に向けての指針書を整備し、構成メンバーによる3か月ごとに1回の委員会を開催している。マニュアルは「身体拘束ゼロの手引き」を整備し、職員は何時でも見られるようにしている、新人研修には身体拘束の研修も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月一回研修を行い、職員一人ひとりが意識を持つように務めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修にて研修実施、全員が知識を高めるため、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、時間をかけて説明を行っている。疑問点は、都度確認させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様からは、普段の生活から表情や様子、言動行動をよく観察しが必要があれば家族様に相談その際ご家族様の意見や要望もお聞きしたり行事、面会時にもお聞きしている。	ホームは家族の訪問時を利用し、利用者1人ひとりの日々の状況を説明し、要望や意見を聞いたり、定期的な家族のアンケートをとり、運営に活かし、家族とは良好な関係を築いている。毎月、行事や日々の様子を写真入りで便り「ひだまり」を送付している。職員は利用者・家族が意見があっても言い難い事を理解していると共により一層の進化も検討している。	ホームはケアサービスの改善を日々行い、家族と良好な関係が築かれている。家族が知りたがっている日々の基本的な生活状況(食事・排泄・口腔ケア・移動・更衣・入浴・夜間の睡眠)の事実を分かり易い言葉で箇条書きで毎月送付し、電話やメールで話し合い、より一層の言い易い環境作りを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、リーダー会議、全体会議等で日頃から気になるや意見や提案を聞く機会を設けている。個人面談も実施している。	過去に職員不足の時もあったが現状なんとか落ち着いている。定期的にユニット会議・リーダー会議・全体会議を開催し、職員の意見や要望を聞くようにしている。ホームは若い世代も多く採用し、ベテランとのバランスが取れた職場環境が整っている。管理者は個人面談を大切に、働きやすい環境を心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニット会議等で、困っていることや不信を課題に上げて話し合い一つ一つ改善に努め、各スタッフが相手の事を考え行動環境づくりに務めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議で研修実施。外部研修の案内もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症サポーターや認サポや認知症フォーラムに進んで参加してサービス向上に務めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の細やかなアセスメントを基軸にし、生活歴趣味、嗜好など会話を通しながらご本人の要望をお聞きするように努めて、不安な気持ちには1:1で寄り添いながら、不安軽減に努めていきながら、人間関係の構築に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、ご家族様にセンター方式を協力して頂き、早い段階からご本人の性格など具体的に聞かせて頂くように努めている。同時にご家族様の希望、要望等を聞かせて頂いたうえで、変化に合わせて都度情報を共有しながら関係の構築に務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の日常生活を基盤としながら、ご本人様の様子からどのような支援が必要かを、スタッフ間で、共有しカンファレンスで話し合いを重ねたうえで今後の関わり方に務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活動作を中心に、洗濯、掃除、食器洗い等々を、できる事を楽しみながら行った上で共同生活を共にする者同士助け合いながら出来るように務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	急変時のみならず、小さな事でもタイムリーに報告し、面会時にもお伝えしている。ホーム独自お手紙なども送らせていただき、理解を深めることでご家族様との関係も築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、お孫さん、曾孫様が面会に来られたり、住み慣れた地域での盆踊り大会や自治会の行事にスタッフと参加して、ご本人が築かれてきた人間関係が途切れないように務めている。	過去の知人等が来訪している方は数名いる。ホームは家族の了解の下、関係が途切れないように支援している。正月や盆に家族の支援で実家に戻っている方や墓参りに行く方もいる。利用者は秋のだんじり祭りや地域の盆踊りを見学し、途切れない生活の継続を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの距離感を考慮しながら なじみの巻毛を構築できるよう配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中はもちろんのこと、退去後にご本人様の様子をうかがう、またご逝去にて退居された方へは、節目節目にご弔問させていただきながら、ご家族様の現在の悩みなどの相談できるような関係性の維持に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を基軸に、週単位のカンファレンスまた、状況変化に併せて都度カンファレンスを取り、いち早くご本人思い、希望、などの日常的な情報収集を職員間にて共有を図っている。	入居時、家族が参加し、センター方式に基づいた過去の生活歴等を職員は共有している。入居後も週1回、チームでカンファレンスを行い、利用者1人ひとりの思いや希望及び変化を詳細に記載している。職員皆が把握し、思いに沿った支援をチームで心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にもセンター方式にて情報提供いただき、過去の生活歴、ご本人の趣味趣向等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	週単位のカンファレンスを基軸に、言動、行動、状況の変化をいち早くキャッチし、次の対応に職員一人一人が務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様、主治医、看護師、スタッフの意見を参考に週ベースのカンファレンスの実施。孫赤での意見を総合的に鑑み介護計画を作成。大きな変化等には、緊急カンファレンスを行い、ご本人の思いの変化及び行動の変化を早々に介護計画の見直し、反映させている。	週1回、カンファレンスを行い、3か月ごとにモニタリングを実施し、医師や看護師及び家族と相談しながらサービス担当者会議も開催し、現状に合った介護計画作成につなげている。介護計画の見直しは3ヶ月ごとに行なっているが急変時には即変更を実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ、週及び月ベースのモニタリングを記入し実践によって気づきをスタッフ間にて共有し、その人らしさを引き出せるよう介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の、ご家庭での事情等を、面会時または電話にてお知らせいただき、その時に必要なサービスをくふうしながら、既存の支援にとらわれないよう努め、何ができるのかを慎重に判断しスタッフ間にて話し合い柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各方面のボランティアの方々を基より、地域スーパーまたは商店街で、一人で買い物ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	24時間対応し、常に状態の変化を細かく情報共有に努めている。	協力医による往診は月2回(内科)であるが、利用者は従来のかかりつけ医を選べるようになってきている。眼科、耳鼻科へは職員、家族同行で受診している。診察結果は個人別にファイリングし、情報共有している。週2回の訪問看護師により、協力医と連携した健康管理を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医+看護師+スタッフでのタイムリーな情報の共有に努め、緊急時に速やかに対応できるようかかりつけ医との連携を築かれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は必ず付き添い、入院先へも2日に一度は訪問するよう努めているとともに、担当医との話し合い時には必ず同席させていただき早期退院できるようお伝えする。病院関係者の方々とも、医師会の会合等を通じ関係を構築している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、かかりつけ医、看護師と密に連携を図っている。 重度化の指針については、入居時及び終末期を迎えられたタイミング等なるべく早い段階にて、ご家族の希望及び医師からの指示等を何度もカンファレンスを実施のうえ、ご本人様の思い、ご家族様の思いを確認したうえで、終末期の在り方と方針を各方面と共有している。	看取り介護ケアの研修は年1回であるが、ほぼ全員が看取りを経験している。直近では昨年12月、家族も泊まり込み、夜勤時間帯であったが、職員全員で看取りを行った。週1回のカンファレンスとその記録により、対応方針の共有を図っている。居合わせた他の家族からも終末対応には信頼を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけ医内の看護師及び訪問看護師により急変時や事故発生時の対応について指導を受けるのはもちろんのこと、個々に外部研修、内部研修への告知案内を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣施設及び近隣住民の方々と共に、年2回の消防訓練の実施。また、避難場所の1部にホームの駐車場解放を告知したうえで、地域との協力体制の構築に努めている。	前回の消防訓練は昨年の12月、消防署員立会いの下、台所からの出火を想定して実施し、通報の研修、消火器の使い方の指導を受けた。事業所の駐車場を避難場所として開放し、地域貢献をしながら地域の協力体制構築に心を砕いている。備蓄食品は3日分用意している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内に於いて、定期的に接遇研修を実施。個々の性格を把握し、スタッフ間にて共有し、個人の誇り、プライバシーを損ねないよう配慮している。	接遇研修は入社時と年1回行っている。特に言葉遣い、態度、視線に気を付けている。ちょっと待ってほしい時、その理由を必ず説明し、丁寧に気持ちを伝えることを心掛けている。個人情報適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面であらわされた事柄、また、感じたことなどは、さりげなく自己決定できるように支援し自己決定されたことを完結できるよう努めている。例えば、買い物時、ご自身で使用する食器などを選ばれるなど、ご自身の身の回りの物を選択できる環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のその日の状況に合わせて、今何が必要かを考えることは基より、何がしたいのか、どうしたいを聞いたりまた時には思いを推し量るなどの配慮し、その方の希望に添える支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時の洋服選びはもちろんのこと、髪の毛の乱れ着衣の乱れ、汚れにも細かく配慮するように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニットにキッチンがあることにより、五感を刺激し、時には味見などもしていただくこともある。また、毎食の盛り付けには、ご入居者様が中心となり行うとともに、配膳下膳などが可能な方へは見守りの中行っていたいっている。	調理専門職員が利用者と一緒に買い物に行き調理している。完調品を使用することもあるが、まな板の音、香りなど五感に訴える環境づくりに力を入れている。癒しのBGMも流れている。利用者の半数が洗い物(すすぎ)、盛り付けを手伝っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事をチェックシートを活用しながら、1日の状況が把握できるようにしているとともに、スタッフ間での情報共有したうえで、食事介助における嚥下の強弱へも配慮し見守り支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士による口腔内チェックを週一度実施は基より、毎食後に歯磨きの励行(ご自身でできる方はご自分で磨く)最後の仕上げ磨き等はスタッフがお手伝いさせていただきます。介助が必要な方へはスタッフがお手伝いさせていただきます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、排泄のパターンの掌握。立位が取れる方へは、できる限りトイレでの排泄ができるように支援している。	布パンツ使用者は7人でおむつ使用者はいない。排泄パターンを把握し、利用者それぞれにパットの大きさに工夫を凝らし支援している。きめ細かな対応により、おむつ使用からリハビリパンツとパットへと改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便薬に頼らないよう生活習慣の位置づけ。 ①起床時、一杯の水の飲用 ②朝食時のヨーグルトジュースの習慣化 ③フロアー内を毎朝歩行(365日のマーチ) 上記のほか、牛乳等の提供し排便を促す。また、かかりつけ医との連携により早めの支援を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望のある方は、ある程度の時間に配慮し入浴いただく支援を実施。また、ご自身で中々入浴を希望されない方へは、その方のタイミング声掛けにより、自ら入浴されるように配慮している。	2~3日に1回の入浴としているが、利用者の希望を大切にしている。入浴拒否の場合は時間をずらしたり、職員を変えたり、家族と一緒に入るなど工夫している。機械浴はなく、家庭的な雰囲気を大切に、楽しい会話とくつろいだり気分が入浴できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣を、センター方式より導き出しスタッフ間にて周知したうえで、昼寝、排泄のタイミングなどをさりげなく声掛けさせていただき、あくまでもご本人のその時の思いをくみ取りながら支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より、都度薬の効能及び注意事項・重要性の説明を受け、薬による目的・重要性を理解したうえで服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事支援などがスムーズに行えるよう配慮しながら、自ら行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本に之希望を重視し、なるべく実現できるよう支援に努める。日常生活では、洗濯干し及び取り入れ・お花の水やりなど、ご自身の生活されてきた習慣の近づけるよう配慮している。	利用者の希望に沿った外出は、少人数で出かけている。浜寺公園、岸和田城などに出かけ、帰りにファーストフード店に立ち寄りしたりしている。日常的には洗濯物を干したり、買い物、散歩に出かけている。偶数月の第2土曜には、事業所で認知症カフェを開催、楽しいひと時を過ごしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が現金を保持することのリスクをスタッフは十分理解しており、そのうえで、どうしたらご本人様が現金保持できるかを常に意識しながら、買い物時にご自身で判断できる方へはご自身での支払いいただけるよう支援に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居に際し、ご家族様より、本人様からの電話の是非についてあらかじめ伺い、また時間の配慮をしながら、ご自身で自由に掛けていただけるよう環境づくりに努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	座席の固定はしておらず、その時々状況に配慮しながら、ご自身が座りたいところまたは、居心地が良い場所等を行動から配慮している。好きな音楽・テーブルに季節の花などを活かしていただくなどの工夫しながら、季節の移り変わりなどを感じていただけるよう配慮している。	居間兼食堂は整理されており、室温や採光に気を付けている。壁面にはカレンダー、てるてる坊主、金魚の貼り絵が飾られている。利用者はこの共用空間でラジオ体操、ごぼう体操(シニアのための音楽体操)を行い、楽しみながら下肢筋力を強化している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の気持ちの変化に応じて、家具の配置を工夫し、それぞれの時間を有効に使えるよう支援したうえで、気の合う方同士、各居室の歓談を見守り転倒に配慮したうえでの支援を実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の生活で使用していた家具・食器・寝具などをご持参いただき、ご自身が慣れ親しんだ物の中で安心化を得られるよう支援するとともに居室内のレイアウトでは、ご家族様・ご本人様の希望を極力反映させていただき、快適な降雨感が作れるよう配慮している。	居室は畳に布団を敷いたり、ベッドを持ち込んだり様々である。整理ダンスには中身をラベルで表示し、衣類の整理収納がスムーズに行えるよう支援している。壁面にはお気に入りの写真や手作り作品を飾り、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室には、表札を設け、トイレの場所などを探されているときはさりげなく傍へ寄り、目的地へ誘導し、ご本人様の自尊心を傷つけないよう配慮している。		